

橋梁長寿命化修繕計画

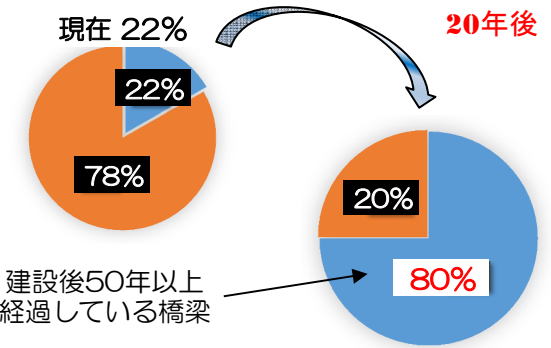
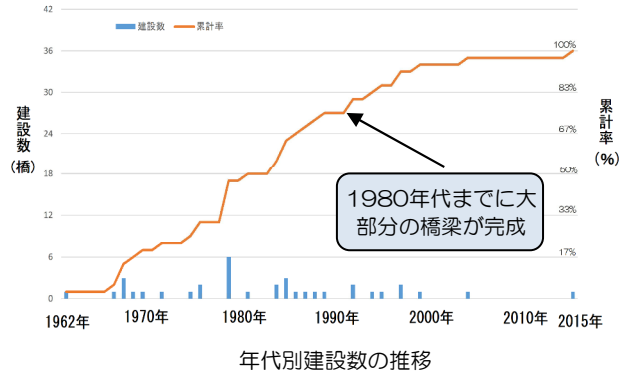
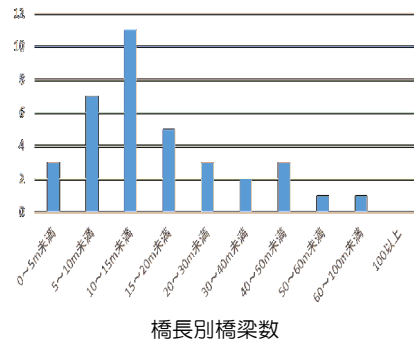
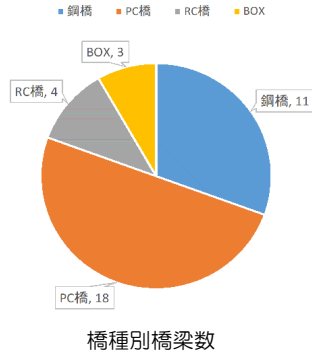
2025年(令和7年)9月

真狩村建設課 電話0136-45-3617

背景・目的

真狩村が管理する橋梁は、2025年8月31日現在で36橋あります。

このうち、建設後50年以上を経過する高齢化橋梁は、現時点で8橋で全体の22%ですが、大部分が1980年代以前に建設されているため、20年後には管理橋梁の**80%にあたる29橋が高齢化橋梁**となります。このような状況から今後増大が見込まれる橋梁の修繕・架替えに必要な経費について、可能な限りコスト縮減を図る取り組みが不可欠です。道路交通の安全性を守る目的で、これまでの【事後保全的対応】から【計画的かつ予防的な対応】に転換し、橋梁の長寿命化によるコスト縮減を図ります。



建設後50年以上経過している橋梁

今後20年間で橋の高齢化が急速に進行

橋梁長寿命化修繕計画の策定により
修繕・架替えコスト縮減

健全度の把握および

日常的な維持管理に関する基本的な方針

1. 健全度の把握の基本方針

国土交通省道路局「道路橋定期点検要領」を基本とした定期点検や日常的な維持管理によって得られた結果に基づき、橋梁の損傷を早期に把握します。

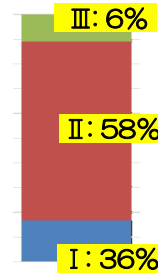
2. 日常的な維持管理に関する基本的な方針

橋梁を良好な状態に保つため、日常的な維持管理としてパトロールや清掃（特に排水桝の土砂詰まりや橋座の土砂堆積除去）などの実施を徹底します。

対象橋梁の損傷状況

真狩村が管理する橋梁の損傷状況は、損傷の小さい順にⅠ～Ⅳ判定となり、Ⅰ：36%、Ⅱ：58%、Ⅲ：6%の区分となっています（※判定Ⅳは無し）。これより優先順位等を考慮し、Ⅲ判定より順次補修を実施します。

区分	状態
Ⅰ 健全	道路橋の機能に支障が生じていない状態。
Ⅱ 予防保全段階	道路橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。
Ⅲ 早期措置段階	道路橋の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態。
Ⅳ 緊急措置段階	道路橋の機能に支障が生じている、又は生じる可能性が著しく高く、緊急に措置を講ずべき状態。



集約化・撤去

令和10年度までに、橋梁の利用状況や点検の診断状況等により、集約化・撤去の対象となる2橋については、橋梁の修繕及び定期点検にかかる費用として、2千万円の縮減を目標とします。

新技術等活用方針

橋梁点検については、ドローン技術の活用や社会インフラ画像診断サービス等の導入・検討や費用の比較を図る。また、橋梁の修繕工事は新材料や新工法の動向を把握し導入検討を進め、補修コストの1割縮減に努めます。

対象橋梁の修繕費用に関する

基本的な方針および効果

予防的な修繕を実施することによる長寿命化、及び計画的な架替えによりライフサイクルコストの縮減を図ります。

今後60年間の事業費を比較すると、従来の大規模修繕更新型が41億円に対し、長寿命化修繕計画の実施による予防保全型が17億円となり、約24億円のコスト縮減が見込まれます。

寿命がきたら架替えする 場合の事業費 41億円	-	計画的に補修する場合の 事業費 17億円	=	コスト縮減効果 24億円
-------------------------------	---	----------------------------	---	-----------------

費用の縮減に関する具体的な方針

令和10年度まで修繕予定の橋梁については、設計時に新技術の導入を検討し、従来の工法との費用の比較後、工事費の1割程度のコスト縮減を目標とします。

3巡目以降の橋梁点検については新技術の活用を検討し、令和10年度までに費用の1割のコスト縮減を目指します。また、令和元年度から市町村橋梁点検一括発注業務により、複数市町村が点検を一括実施することで費用の削減を図っています。